

令和3年度  
「新しい学校推進 意見交換会」資料

【宮小学校】【宮中学校】

佐世保市教育委員会  
新しい学校推進室

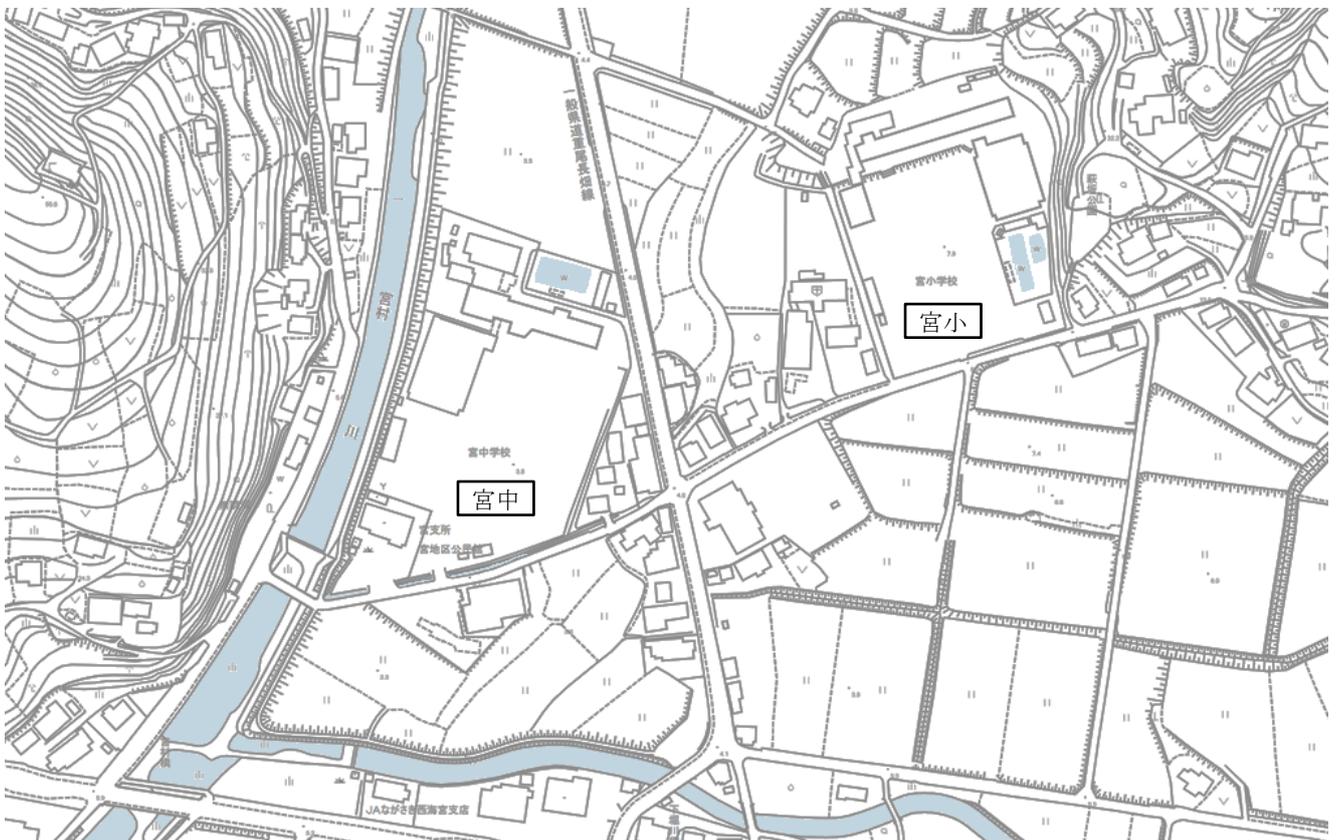
1

宮小学校区・宮中学校区 現在の通学区域（校区）図



2

宮小学校・宮中学校 近隣地図



## 3

## 各学校の現状 及び 児童生徒数の将来推計

## ① 現状（令和元年5月1日現在）

小・中学校	宮小	宮中
児童数（令和元年5月1日現在）	113人	58人
学級数（特別支援含む）	6(9)学級	3(5)学級
建築年数	51年	34年
校舎延床面積（施設台帳より）	2,911 m <sup>2</sup>	2,477 m <sup>2</sup>
運動場面積	約 6,800 m <sup>2</sup>	約 7,500 m <sup>2</sup>
敷地面積	約 13,200 m <sup>2</sup>	約 17,100 m <sup>2</sup>
地区自治協議会区域	宮	宮

※敷地面積には山林や法面（人工的な斜面）を含めておりません。

## ② 宮小学校・宮中学校の児童・生徒数の推移

再編しない場合		
学校名	令和元年 （5月1日現在）	20年後 （2040年推計値）
宮 小学校	113名	約140名
宮 中学校	58名	約60名

再編した場合		
学校名	令和元年 （5月1日現在）	約20年後 （2040年推計値）
宮義務 教育学校	171名	約200名

## 4

## 学校再編案について

目的	<p>☆9年間を見通した小中一貫教育の導入によって、宮小と宮中が小規模校であることのメリットを生かしつつ、さらに児童生徒の個性や能力を伸ばす教育の充実を図ること</p> <p>☆宮小の施設者朽化問題の解消</p>
再編案	<p>◎宮小と宮中を統合し、義務教育学校とします。（統合後の場所は宮小を想定）</p> <p>（理由：小規模校であるため同校種との統合により望ましい学校規模を目指すべきですが、近隣校が遠いため、児童生徒の負担が大きいと考える。そこで、施設一体型の義務教育学校とすることで、学校全体として一定の集団規模を確保しつつ、児童生徒の個性や能力を育成したいと考える。場所については、宮中の方が、敷地が広いものの、洪水浸水想定区域に指定されていることから、現時点では宮小の場所を想定していますが、敷地の確保中学校の利用や校舎の整備も含めて、今後も総合的な検討を続けていく必要があると考えています。） ※下線部は意見交換会の意見を受けて修正</p>
期待できる教育効果	<p>○義務教育学校という一つの学校組織及び施設一体型となることで、9年間を見通した特色ある教育活動を、緊密に連携しながら行うことができます。</p> <p>○宮小に校舎を整備することで、より安全で整備された学校に通うことができます。</p>
留意点	<p>○小中一貫教育を導入しても、一学年あたりの小規模化という課題が残ります。</p> <p>○グラウンドの使用面積が狭くなる可能性があります。</p>
	<p>対応策</p> <p>○小学校の敷地に余裕があるとはいえないため、中学校のグラウンドを第2グラウンドとして使用するなどの対策が必要です。</p>

- 学校規模対策のため、「宮小と宮中を義務教育学校に統合」することについて。

- 統合後の場所について。

凡例	
<b>水害時の避難所</b>	<b>避難する際に注意を要する箇所</b>
市が管理している避難所	土砂災害警戒区域(土石流)
避難方向	土砂災害特別警戒区域(土石流)
町内会で自主的に開設・運営される公民館	土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)
避難方向	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)
緊急時の避難場所	地すべり危険箇所
<b>水防に関する施設</b>	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
水位観測所・量水標	家屋倒壊等氾濫想定区域(洪水氾濫)
水防倉庫	過去の浸水実績地域
<b>防災上配慮を要する方が利用される施設</b>	河川・水路
浸水想定区域内にある要配慮者利用施設	河川横断箇所

- 敷地面積は、宮中の方が広い。
- 校舎の建築年数は、宮中の方が新しい。
- 宮小は市が管理する避難所となっている。
- 宮中は浸水想定区域内にある要配慮者利用施設となっている。



宮村川洪水ハザードマップ（佐世保市 令和2年6月）より